

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2277102287		
法人名	(株)脳リハビリネットワーク		
事業所名	ねんりんはうす西都台 (2ユニット共通)		
所在地	浜松市西区志都呂1-5-20		
自己評価作成日	令和5年 2月 3日	評価結果市町村受理日	令和5年 3月 28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-kouhyo-shizuoka.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人静岡県介護福祉士会
所在地	静岡県静岡市葵区駿府町1-70 静岡県総合社会福祉会館4階
訪問調査日	令和5年 2月 28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

1日の生活の中で意図的に脳の活性化を取り入れ認知症の進行を穏やかにする関わりを行っている。規則正しいメリハリのある生活には、散歩、下肢筋力低下防止、家事支援、娯楽(外出、手工芸、作品作り、音楽鑑賞、合唱等)などを取り入れ、笑顔を引き出す事を大切にしている。食事は自施設の給食部で作っており、温かくおいしい食事を提供できている。運動、栄養、睡眠をしっかりと取ることで脳にも良い生活を送れるよう心がけている。残存機能を維持し、周りの人と関わり、役割を持ちながら生活できるよう支援している。時間の経過と共に利用者の認知レベルの低下が顕著になっているが、レベルにあった無理のない支援、笑顔を引き出せる支援を目指している。高齢者向けの精神科もすぐそばにあるため必要な方は受診し適切な対応や薬を相談している。受診時以外にも講演会なども行ってもらえ職員は認知症に対する理解を深めて利用者の対応に生かすことができている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

認知症予防に特化しているグループホームである。近隣に大型ドラッグストアや喫茶店、個人病院(歯科や精神科等)があり、散歩を兼ね病院受診もを行っている。雨の日は階段を使い、それ以外の日は全員散歩に外に出かけている。以前は買い物に出かけたり散歩の途中でコーヒーを飲んだりできていた。コロナの緩和がされたら、すぐに以前のような活動に戻りたいという希望がある。精神科の先生に講演を行ってもらい、認知症についての勉強に役立てている。笑顔を引き出す支援を目標に掲げていることから、無理のない生活で笑顔を引き出せるように職員が役割をもって日々の生活を支えている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	常にスタッフが目にできるような玄関先、フロアに会社の運営理念と当施設の理念を掲示してあり日々の申送りや会議でケアの方向性を確認し、実践している。理念に基づき日々利用者様と接している。	法人理念とグループホーム理念を入所時に「理念について」として話を行っている。玄関ホールや各階の入り口に常に目に入る場所に貼付してある。申送り時などで話をし職員全員の意識向上につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナの影響で外部との接触を控えている状態。散歩は毎日行い、すれ違った方と挨拶は欠かさずしている。また法人で地域向けの認知症予防講座も開催している。	コロナ過であり外部との付き合いはできていないが、毎日の散歩時に近隣住民と会った時の挨拶は行われている。今後コロナの緩和を見極めながら、認知症予防講座などを公民館で開いていきたいと予定している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	新型コロナが出るまでは運営推進会議にて日常の様子を説明したり認知症検査について説明をしたりして理解を深めて頂いていた。運営母体の方では地域の公民館での認知症予防講座を開催している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	新型コロナの影響で書面開催ではあるが2か月に1回開催し、返信していただいた意見を質の向上へ繋げている。	2か月に一回の書面開催ではあるが開催されている。グループホームでの内容のお知らせを中心に報告している。近隣の先生の講演も当法人内にて行われている。今後、会議の対面開催も考えている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	介護保険で不明な点は介護保険課の方に問い合わせをしながら進めている。	コロナの件で通達が来るので質問などは頻りに担当部署と内容確認などを行っている。事業所としての取り組みの関係から各種の質問などは法人が行っており、確認事項は随時入ってきている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行っていない。職員会議にて虐待と身体拘束の勉強会を行い日頃のケアが不適切と感じる点、対策など話し合った。	利用者の表情や態度から良い介護ではないと感じた時は、職員自身の行動を自分で振り返りを行い改善に繋げている。年2回の勉強会の時にチェック表をつけており、新ためての振り返りの会議としている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待が見過ごされないよう、職員全員が気付きを大事にしている。少しでも異常や異変があった場合、記録に残し、情報共有している。スピーチロック等言葉掛けの問題がなかなか難しい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要のあるご家族には説明をしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前、入居時に十分な説明と質疑応答を行い、納得いただいている。その後に出た質問にも丁寧に説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご利用者様同様ご家族とも信頼関係を築けるよう心掛けている。家族来所時は近況報告をし、毎月写真付きの施設だよりを送付している。相談窓口の案内も掲示と契約時に説明している。	便切に写真をたくさん添付して、コメントをつけて家族に送付している。2か月ごとに季節ごとに行われるイベントの時の報告も行われている。家族から送られてきた衣服などを着た時の写真をはがきに貼って、家族に送り返している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員からの意見・要望は幹部職員が日常的に話を聞いたりして吸い上げ、2か月ごとのフロアー会議や全体会議、毎月の幹部会、役員会等で報告している。幹部職員は他職員とのコミュニケーションを心掛けている。	管理者は各階で行われるフロアー会議で職員の声を聞き、業務の中での問題や確認の話し合いが行われている。例えば、一日の中で決められた業務が重なってしまい、あわただしくなってしまう事から業務手順の変更をしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の質の向上や考えを把握する為に、毎年人事考課、目標設定シートを活用して職場環境整備に努めている。また随時職員の状況の変化など聞き取りをし、会社とも相談しながら適切な働き方を提案している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	適時必要な外部研修に参加してもらっている。受講した職員からのフィードバックにより全職員で内容を共有するようにしている。社内研修も随時おこなっている。また新人教育のマニュアル等を作成更新し教育方法を模索している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍で他施設との交流の機会はあまりないが、同法人内のデイサービスや有料老人ホームの職員とサービスについて話し合い向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	家族等関係者からの聞き取り用のシートを作成して入居前に記入してきてもらうなど、家族と共に本人の思いを検討するようにしている。その後も入居者の行動、言葉などから本人の思いを汲み取るよう努めて、信頼関係を築くようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前からかかわっている主治医やケアマネからの情報を収集している。入居時にご家族から要望を聞き、意向の確認を行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	今までの情報を元に本人、家族のニーズを把握した上で、支援の優先順位を考慮しサービスに繋げている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	常に対等な関係を築き入居者がただ介護される側にならないよう、共に生活をしているものとして家事を一緒に行ったり、意思を確認しながら生活するようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との相談や報告を日常化し、意見を交わしあっている。新型コロナ発生以前は、外出や外泊の支援も可能な限りお願いしつつ家族との絆を大切にしよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	現在コロナ禍で直接面会は行っていないが、オンライン面会や電話やハガキのやり取りなどしている。家族の協力や理解も得て可能な限り馴染みの方との関係を大事にしている。通常時は年末年始には外泊外出を進め、家族との交流もてるよう声掛けをしている。	コロナ過であり直接面会はできていないが、電話やオンラインによる面会は行われている。散歩は毎日行われていることから、近隣住民と立ち話をする事もある。絵はがきなどのやり取りも行われている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	相性を見ながら快適に楽しく過ごせるように必要なときは介入し関係作りを支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後もいつでも相談に応じる旨を伝え対応している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段の生活の様子から本人の希望を聞いたり、感じたりしながらその時々ニーズを把握することに努めている。	入居時に家族や本人から今までの生活歴を聞いたり、今まで行っていた趣味の道具を持ってもらったりしている。本人の表情、口調から希望をくみ取るようにしている。編み物を行ったり、寝るまで入れ歯を外したくないという利用者の希望をくみ取っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の情報や会話の中からその方の背景を汲み取り安心していただけるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の記録、申し送り、フロア会議で本人の状況を把握し、支援方法を検討し、その都度柔軟に関わっている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族からの意見を聞き、定期的なモニタリングを行っている。また客観的な職員意見も反映しながら次の介護計画の見直しに繋げている。定期的に担当者会議を開き利用者ご家族職員の意見・要望を介護計画に反映している。	ケアプランに沿って計画の見直しを行っている。短期目標は1年で設定しているが、本人の様子を見ながら細かく対応し、その都度変更をかけている。2か月に一回のフロア会議の時に話し合いを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランを基に作成された個別の記録用紙に日常的に記録している。また記録の内容は職員全員で共有し、より良いサービスになるよう努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	リハビリを強化したい方への訪問マッサージ、歯科往診等、その時の状態に合わせ可能な限り対応している。また、ご家族が必要と感じたことについては意見等を出し支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議を利用して関係作りを行っている。また日々の散歩で周辺の店舗へ行き買い物や飲食を楽しんでいる。(現在不可)		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的に協力医を受診、ご家族とのかかりつけ医にかかっている方もいる。日々の生活の中で何かあれば主治医に相談し異常の早期発見に努めている。	協力医に受診をし、すべて利用者に職員が付き添っている。看護師とは24時間連絡が取れるようになっており主治医との連携も密にとられている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の生活の中で異変や気になることがあれば看護師に相談し、指示を仰いでいる。利用者全員の血圧と体温、SpO2、体重測定を定期的に行い、看護師が確認している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	必要時、医療機関の連携相談室や病棟スタッフなどと情報交換や相談を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に、「重度化に係る指針」と「グループホームにおける看取りの限界について」を説明し、ご家族の意向を聞いている。その後も状況の変化に合わせて、医師や家族と相談しながら最後まで安心して過ごしていただけるようにしている。	看取りは行われていないが入居時に「看取りについて」の指針や「看取りの限界」についての説明を行っている。当グループホームは歩けることを主にしていることから、医療行為が始まってきたり、歩くことが難しくなってきたりした時に話し合いを行うようにしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応マニュアルあり、すぐ目につく所に設置している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	法人全体で定期的に避難訓練を行っている。初めて夜間想定訓練を行い、いろいろな課題が出てきた為対応を練っている。利用者が避難できるよう階段昇降訓練を行っている。	法定避難訓練も行われており、PCB作成も進んでいる状況である。夜間の避難訓練を行った時、課題が多数出てきたとのこと。地域とのかかわりを含め一人誘導での問題、移動時間の問題など多数出てきたことがわかり対策を検討している。	今回、夜間誘導で出てきた各課題の問題点について、移動時間や一人誘導の難しさ、出火場所の違いでの移動など問題点を出し合い、消防所や地域とのかかわりや話し合いを早急に行う事を期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシー保護の重要性や他者のケアが気になるときにはお互いに注意するようスピーチロックなど日常的に話題にするようにしている。一人一人と信頼関係が築けるように、声掛けに気を付けている。	言葉かけについて、スピーチロックには特に注意を払っている。大きな声で声掛けをしない、トイレの話をみんなの前では話さない、小声での声掛け、気になる言葉かけの時はフロアー会議において話し合いをするようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	認知症によりなかなか思いを伝えられない方が多いが、表情や行動からも意向を読み取るよう変化に気を付け職員間で共有相談をしながら、その人にあったケアができるように心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	脳リハビリが理念であるため、ある程度生活リズムはできているが、その日その日の気持ちに寄り添い気持ちよく参加してもらえようという関わりをしている。本人のペースで動けるよう声掛けを工夫している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服装を選ぶことができない人でも、形や襟の空き具合など好みが違うので、その方にあったものを用意してもらうよう家族と相談している。自立している方は本人のやり方に合わせた支援をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	コロナ禍で職員と利用者は食事は一緒には取れないが見守りながら食事をしていただいている。その方にあった食事量や形態で提供している。	施設内厨房にて食事がつくられ提供されている。味噌汁はユニットにおいて作られており、利用者も手伝っている。テーブル拭きや食器拭きなどその方にあったお手伝いがされている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量は常に把握するようにしている。体調不良などで栄養が不足気味の場合は、別の形でも摂取できるよう工夫している。水分摂取量について検討し、さらに水分摂取の機会を増やしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎日、その方に合った口腔ケアを支援している。歯科往診時に医師や歯科衛生士に相談、指導を受けて適切なケア用品、方法で行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個人別に排泄記録を残して排泄パターンを把握している。また時間での誘導、運動、下剤の調整などを行いスムーズにトイレで排泄が行えるよう支援している。	一日の流れの中で排泄記録を作成し誘導に繋げている。便秘予防や脱水予防、認知症予防に水分量が2000mlになるように摂取してもらっている。スクワットなど下肢体操も毎日行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の身体状態に合わせて水分摂取促進、牛乳、ヨーグルト、運動を取り入れている。便秘のある方は排便状況や便の状態を見て下剤を調整するなどしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	2日に1回は必ず入浴している。入浴時間は可能な限り対応している。入浴を拒まれる方には話を傾聴し気持ちよく入っていただけるよう工夫している。	2日に一回の入浴を実施しており午後に行っている。拒否の強い方は現在いないが、利用者のタイミングや話をしながらや人を交代したりして入浴にお誘いしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その日の状態に合わせて支援している。休息と活動のバランスも考えている。居室の温度管理など熱中症や脱水に気を付けている。夜間ゆっくり休んでもらう為にも日中は活動的に過ごしてもらっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居時や受診時に薬の情報を聞きスタッフに周知させている。薬の変更による体調の変化に気を付けている。薬一覧表(目的・用量)の記載がある。誤薬防止の為、内服時・内服後・片付け時チェックしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の状態や好みに合わせ、生活の楽しみをもっといただいたり、家事支援などを通して役割意識により存在価値を見出したりすることができるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎日散歩を提供している。新型コロナ発生以前は、散歩中に日用品を購入したり、喫茶店でお茶を飲んだりして楽しんでいる。普段の会話からご利用者様のニーズを把握するように努めている。花見、遠足、紅葉など季節に合った外出の機会を設けている。	毎日の散歩は欠かさず行われている。今は買い物や喫茶店に寄ってコーヒーを飲んだりできないが、近くにある神社の桜や菜の花、コスモス畑を見に行ったりしている。今後も以前のように近くのスーパーに買い物に行きたいと計画している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族と話し合い、利用者様のレベルに合わせて使用して頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	時々季節の絵ハガキを作って送ったり、返事をもらったりしている。年賀状のやり取りそしたりしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を感じられるよう花を飾ったり、落ち着けるよう環境作りに努めている。四季を感じていただけるようなフロアの装飾を心掛けている。	季節の飾り(紅葉、ハロウィン)を作ってフロアに掲示したり、天井から下げたりしている。月に一回フラワーアレンジメントを行い、正月飾りを作り部屋に飾ったりしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファなど使い落ち着ける、くつろげる場所を作っている。また気の合った利用者様同士各居室で過ごされることもある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	安全を考慮したうえで可能な限り快適に過ごしていただけるよう馴染みのものや椅子などを置いてもらったりしている。また季節の花なども飾り、居心地良く過ごせるよう工夫している。	月に一回書道教室があり書初め展に出品している。書初め展でもらったトロフィーを飾ってあったり、友人からもらった絵手紙を壁に貼ったり塗り絵などを飾っている利用者もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	残存機能を活かし、自立した生活を送れるよう、安全に考慮して物の配置など工夫している。トイレや居室がわからない方のために案内を貼ったり声掛けをするようにしている。		